

□ 定食、一品、其他御好みに應じます □

部	業	大
食	俱	連
堂	樂	工

□ 宴會は多少に不拘御用命願ひます □

階二會協築建

四三八三話電

# 滿洲建築協會雜誌

第四卷  
第十號

## 目次

口 繪

口 大連埠頭待合所支關

寫真版

插 繪

■ 迦陵頻伽文の現はれたる新羅瓦、三、一 ■ 新疆省より發掘されたる唐代瓦の文様、三 ■ 希臘の瓦及柱頭に現はれたる人頭文、一、 ■ 平和藹O氏の住家外觀 ■ 同配置圖一 ■ 同平面圖一 ■ 同下水流末處分法略圖二 ■ 汚水雜水、換氣管に關する圖面五

卷 頭

口 初秋の郊外

本 文

口 新羅瓦迦陵頻伽文の出現に就いて

村田治郎

口 建築と社會事業

松室重光



□實費計算請負法に依れる

滿鐵大連醫院の新築工事

内田 銈 司…二三

□郊外住宅めぐり

—平和臺〇氏の住家—

M S 生…一八

□大連市建築規則改正案に就いて

一 會 員…二六

□動と静

保田虎太郎…三一

□實施的衛生工事に就いて

—汚水、雑水、換氣管に關して—

福岡庄一郎…三六

□庭園の改善

生活改善同盟會…四三

時 報

■面目を一新せんとする帝室博物館 ■激増したる強度試験申込 ■耐震耐火の石材 ■米國に於ける建築工費統計  
 ■進歩したる工場建築 ■鳥取縣に發見せられたる大理石山

會 報

■理事會 ■木材規格案聯合協議會 ■木材規格案答申 ■書記長沿線訪問 ■交換圖書

大連市建築材料時價表

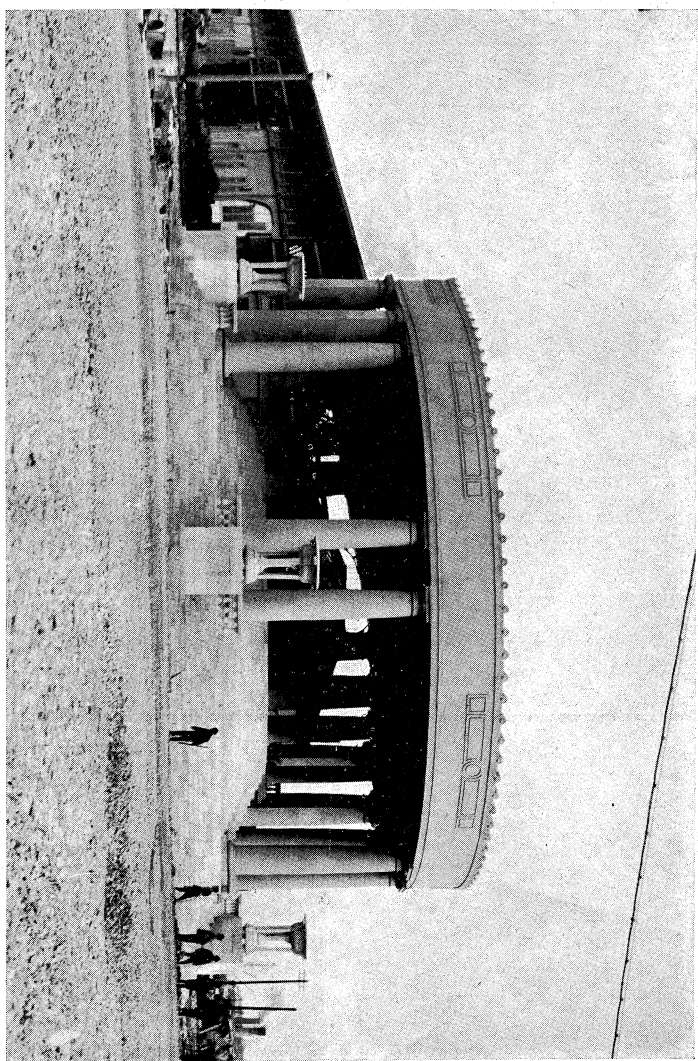
(大正十三年十月上旬調)

編輯後記

- 本誌の編輯については少からず頭を痛めてゐるのですが、兎角思ふ様にいかぬのを残念に思つてゐます。
- 此の度沿線各地の訪問に依つて、編輯に關する色々な御意見や御希望を聴く事が出来ました。そして其の大部分はこれまで屢々計畫した事であるにも拘らず、それが成功してゐなかつたのであります、今後精々努力して御期待に添ふ様に致します。
- 「はるな生」に由つて先頃「音響學」と題する原稿を送られました、講話體にそして平易を旨として書かれたものであります、來月から十數回に渡つて連載致す事になつてゐます。本稿の如きは這般の希望の一端を充たすべきものであると信じて、送稿の士に對し深く感謝するものであります。
- 秋も漸く深く、工事界も最後の世話しさを見る事になりました、幸に諸彦の御健闘を祈ります。

大正十三年十月二十日

編輯子



大連埠頭待合所支關